

答辞

厳しい冬の寒さが和らぎ、春の気配を感じられる季節となりました。

新型コロナウイルス感染症が蔓延するという非常に厳しい情勢の中、本日は、私たちのためにこのような素晴らしい式典を挙げて頂き、まことにありがとうございます。また、ご多忙にもかかわらずご臨席賜りました皆様に心より感謝申し上げます。

今、卒業式と言う場に立って振り返ると、大学での時間は瞬く間に過ぎて行きましたが、一方で非常に濃密な4年間であったとも思います。期待と不安を胸に抱きながらこの山梨大学に入学した当初は右も左も分からずに、戸惑う事ばかりでしたが、諸先生方のご指導・ご支援のお陰で、非常に恵まれた環境で学問に励む事が出来たと思っております。

私がこの山梨大学で学生生活を送ってきた中で心の奥に残っている言葉があります。

それは、ノーベル医学・生理学賞を受賞した本学の卒業生の大村 智特別栄誉博士が、特別講演会で話された”至誠惻怛(しせいそくだつ)”という言葉です。この言葉は元々陽明学の一節です。至誠とは真心、惻怛とは悼み悲しむ心を意味し、この二つを持って生きる事こそが人としての正しい道であると言う事を表しています。

私は生命環境学部に入學し、人間と自然との関わり合いを4年間学んで参りました。そしてこれからの時代においては自然と調和し、共生した、格差の無い社会を築き上げて行く事が肝要であるとされている事を知りました。しかしながらこの社会を築くには、未だに多くの問題が私達の前に山積しています。

この問題を解決するには我々一人一人があらゆる物事・課題に真心を以て取り組み、惻隱の情を以て接する事が重要となってくるのではないかと考えています。そして山梨大学で学んだ学生であれば、目の前の課題に真摯に取り組む力は備わっていると信じています。4月からそれぞれ進む道は異なりますが、この山梨大学で培った知識や技術、精神を活かして世の中に山積している課題を解決できるよう、卒業生・修了生一同精進していきたいと思っております。

最後となりましたが、今日までご指導くださいました先生方、学生生活を共に過ごした友人、支えてくれた家族、これまで関わってきた多くの皆様へ心より感謝申し上げます。本日ご臨席の皆様、並びに配信にてご覧になっている皆様のご健康と山梨大学の更なる発展をお祈りし、答辞とさせていただきます。

令和三年三月二十三日
山梨大学 卒業生代表
生命環境学部 環境科学科
中田 悠介